島根県
保育協議会だより
第48号
発行日:平成26年２月15日
発行者:島根県保育協議会
編集者:総務広報委員会
2014 February No.48

新たな保育制度に思うこと

島根県保育協議会 会長
中山 哲夫
（松江市 ふたば保育所 所長）

保育界にとって激動の年となる平成 26 年の年明けとなりました。

昨年末から国の「子ども・子育て会議」「同会議基準検討部会」が加速度的に開催され、さまざまな情報が伝わってきますがこのたびの「子ども・子育て関連三法」による新・認定こども園制度についての各論部分は一向に伝わってきません。そもそも同会議の持ち方が各委員による一方的な順次意見陳述の最後に総括的に事務方の説明がなされる形式であり各論に至らないのは物理的にも当然であります。会議開催までに各委員に事務方から資料説明などの事前レクチャーの場が設けられておりその場では一問一答方式による質疑がなされている筈でありますが、その内容はオープンにはなっていません。したがって新保育制度については複雑怪奇なものに思え何回説明を受けても難解であり理解に苦しみます。俗に言う神学論争を聴いているようであります。

本来この新制度には反対であり現在もその立ち位置は変わっていない者としては、条件闘争と思える行動は忸怩たる思いがありますが、現場に携わっている私たちが求めていることはより具体的各論であり、全国統一的、網羅的に施行される制度ではなく地域の実情に合わせた制度であります。

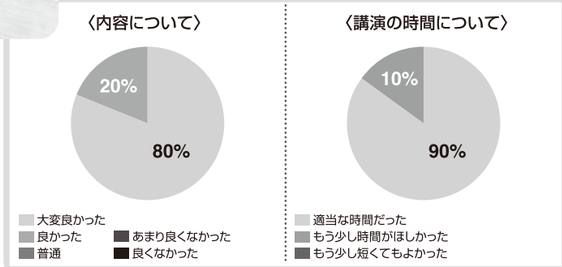
たとえば各論では、ハード面ではより大きな施設が必要となる施設整備に係る経費負担、既存施設の補助金残問題など多岐に及び、そもそも国が主として推し進めようとしている新・幼保連携型認定こども園では、幼稚園がその地域にない、あっても公立であるなど公立同士の幼保連携型は考えられますが困難が伴い、大方は保育所型認定こども園が前提となります。いずれにしても新園舎の建設、大規模改修は必至であります。ソフト面で代表的象徴的事項は、幼稚園サイドから強く主張された学校教育の導入であります。就学前教育としての幼児教育は保育所も幼稚園に比較し遜色なく行っているとの自負はありますが、学校教育法第 1 条に示されているいわゆる 1 条校たる幼稚園が主張する学校教育は、幼稚園にとっては天下の宝刀であり保育所ではかなわない部分でありました。しかし新型認定こども園では、その垣根はなくなり社会福祉法人も学校教育部分に大きく踏み込むことができるようになりました。ところで、就学前の学校教育とは具体的にどのような事柄を示しているのでしょうか? 集団の中での学び、育ち、社会性の熟成いずれも違うようであります。私なりの結論としてはやはり「読み・書き・そろばん」の小学校教育の先取りであり、小学校入学に向けた予備塾化であります。現にそのように理解している保護者が大方であり、既に取り組みを開始した施設も全国にはあります。このことはやがて 5 歳児の義務教育化にもつながる話であり幼稚園にとっては存続問題となりかねません。このたびの一連の流れの中で、パンドラの箱を開けてしまったのは幼稚園なのかもしれません。

平成25年度 保育者スキルアップ研修会

去る平成25年12月2日（月）、保育者スキルアップ研修会が開催され77名の参加がありました。

会場 出雲市「パルメイト出雲」
講師 東教体育科学研究所
峯田 英治 氏、小川 陽二郎 氏

アンケート集計結果



【大会参加者の声】

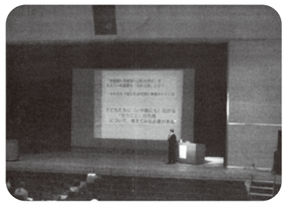
＊内容について
- ●やっていて楽しさもわかり、やり方もよくわかり、子どもと一緒にやりたいと思った。
- ●身近なものを使って子どもの活動面を伸ばすいい研修だった。
- ●保育において今後の考え方が学べて勉強になった。
- ●こちらの考え方ひとつでいろいろと楽しめることがわかった。頭は柔らかくしていかないとと思った。
- ●すぐに実践しながら、幼児期の発達やのばしたい力などをおしえていただきとてもわかりやすかった。
- ●講師がとても楽しくホントにスキルアップへつながる研修だった。
- ●一つ一つの運動にねらいと対象の年齢をあげてもらえ良かった。
- ●新聞紙や袋を使っての道具作りは簡単で安全性もあり参考になった。
- ●決して無理ではない体操だったので続けられそう。

＊時間について
- ●だらだらしない短時間での活動、切り替えの早さなど集中できた。
- ●レジュメの内容より少ない実践だったのでもう少し時間がほしい。
- ●昼が長いので30分くらいでよいと思う。
- ●もう少ししっくりやってみたかった。
- ●もう少し実践的なものがあっても良いと思う。
- ●一つ一つが短いのに、ポイントもわかりやすかった。
- ●あっという間の時間だった。

＊その他の意見
- ●12月は忙しい時期でもあるので夏の方がでやすい。
- ●市単位でされたら、市内全体のスキルアップになると思う。
- ●久しぶりに子どもの気持ちに戻って運動あそびを楽しむことができた。
- ●会場が体を動かすには狭いと感じた。
- ●今回の遊びがわかる資料が一緒にあるとよかった。体を動かしながらメモをとるのは大変だった。
- ●来年もぜひ同じ先生で研修を。

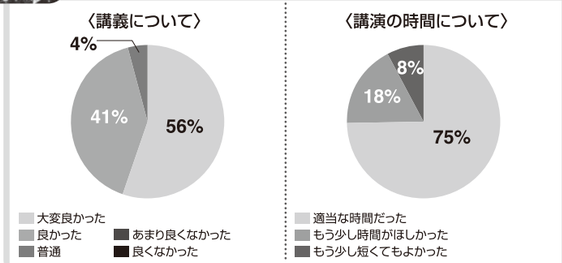
平成25年度 保育者職員研修会

去る平成25年12月7日（土）、保育者スキルアップ研修会が開催され193名の参加がありました。



会場 大田市「サンレディー大田」
講師 島根大学 副学長 肥後 功一 氏

アンケート集計結果



【大会参加者の声】

＊講義について
- ●論理的に物事を伝える事＝ファンタジーという考えが言われて初めて気づいた。よく考えていないだけで実はこうなんだ、という話が多く、日々の保育に当てはめて考えられた。
- ●コミュニケーション論は大変刺激となった。Doing，beingの話は何回聞いても納得できる。先生のお話を聴いていると、宇宙が広がる気がして次回が楽しみ。
- ●保育園は保育（託児）と思われることが多いですが、教育にはない養護という強みを勉強することができ、とてもよかった。
- ●保育者として、今後目指す所の目標が確信できた時間となった。
- ●今の悩み（小学生の授業態度）（保育所の教育の偏見）に関する内容で、胸の内にストンとおちる内容だった。

＊時間について
- ●集中して講義を聞くことができて丁度よかった。
- ●保護者の関わり方のお話も聞きたかった。
- ●今回さらっと話されたことをじっくりと聞いてみたい。聞けない項目もあったので。
- ●参加型学習は、保育士として同じ（または違った）悩みを持っていたり、考えが聞かれ、それに答える肥後先生の話がとても勉強となったので、もう少し聞きたかった。
- ●スライドがもう少しゆっくりだとよかった。

＊その他の意見
- ●自分の保育を振り返る機会となり、つい自分流に満足し、日々過ごしてしまっているようで反省する。子どもたち、職員間で信頼関係を築きながら楽しく保育（仕事）していけるよう努力（考えて）していきたい。
- ●いろいろと悩むこともあるが、頑張ってみようという気持ちになった。
- ●出雲でもやってほしい。

編集後記

就任間もなく中国地区保育研究大会が開催され、ただただおろおろして始まった保協役員ですが、もう一年が経とうとしています。しかし、これからの一年はよりめまぐるしく保育現場も保協も変っていくのでしょうか。

おろおろばかりしてはいられません。私たちは「子どもの利益」を保障するために何をするべきかを目を見開き、耳を傾け、一緒に考えていきましょう。

第57回 全国保育研究大会を開催しました。

去る平成25年10月9日（水）～11日（金）、名古屋市「名古屋国際会議場」にて「第57回全国保育研究大会」が開催され、1,600名の参加者がありました。
また、記念講演には、講師として辻井 いつ子氏においでいただきました。

第57回 全国保育研大会に参加して

副会長 森山 幸朗（雲南 あおぞら保育園 園長）

平成25年10月9日から3日間、愛知県名古屋市で開催された全国保育研究大会には、全国の保育関係者1600人が集い、研究討議が行われました。子ども・子育て支援新制度の施行を前に、その詳細が不透明で複雑な仕組みに不安を募らせる人たちが、確かな情報を得たいと熱心に耳を傾けました。しかし、厚労省・橋本泰宏保育課長の行政説明は、先に（8月）行われた自治体向けの内容を出ないもので、特に三党による修正で復活した、児童福祉法24条1項についてはまったくといっていいほど言及せず、幼保連携型を中心に、認定こども園への移行を促進するような方向付けがなされているなど多くの問題点についても触れませんでした。新制度の前倒しである「待機児童解消加速化プラン」について言及、その一つである小規模保育事業の認可基準について検討状況の紹介がありましたが、資格要件の緩和など待機児童対策を安易な形で進められことにつながりかねないと批判が広がる内容でした。

続いて、万田康会長の基調報告がありました。子育て会議に参加している保育団体が正式な意見表明を述べていない段階で、新制度については総論的な見解が述べられ、保協組織のあり方に関しては、12月の全国正副会長会の研修会で議論を深めることが提起されました。新制度については、保育三団体協議会の設立を経たので、今後協議を重ねながら対応すると報告がありました。

すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして

2日目は第5分科会、テーマ「家庭と地域との連携による食育の推進」に参加。意見発表は「食べることの楽しさを育む」と題して、浜田市つくし保育園・山本沙織調理員と同美川保育園・野上玉美調理員が発表、また宮崎県都城市・早鈴保育園の吉田あけみ保育士の発表もありました。両意見と長期にわたる研究成果をもとに、豊富な資料で内容と課題の分析がなされていました。参加者からの質問にもていねいに応じ、助言講師の白梅学園大学・師岡章教授から高い評価を受け、参加者のために詳細な講評内容が述べられました。

全国大会の発表を終えて

つくし保育園 山本 沙織

昨年10月の第57回全国保育研究大会（名古屋市）第5分科会（テーマ：家庭や地域との連携による食育の推進）にて意見発表を行いました。浜田市の発表は、パワーポイントの中に絵本を活用した子どもたちの食育活動の様子がたくさん映し出されます。聞いている参加者の皆さんに楽しい様子がより伝わるようにと、私自身が一緒に活動を行った時の事を思い浮かべながら気持ちを込めて読みました。協力して下さったたくさんの方々の顔が浮かび、少し言葉に詰まる部分もありましたが、無事に発表を終える事が出来て本当に良かったです。参加者の皆さんからたくさんの質問があり、興味・関心を持って聞いて下さったのだと実感できました。最後に助言の師岡先生から、「良い発表でしたね。胸を張って帰れますよ」との言葉を頂き感無量の思いでした。この貴重な経験を糧に、これからも子どもたちとの楽しい食育活動を継続していきたいと思います。

研究委員の取り組みについて

研究委員長 三隅保育所 山岡 千代美

平成21年11月に浜田市保育連盟20園で研究委員会を発足し「楽しく食べる」をテーマに、発表に向けて活動してきました。研究を進める中で、どのように進めていけば良いのだろうか、テーマにそった活動とは何が出来るのだろうかなど、いろいろな意見があがりました。会員で話し合いを重ね、園長先生やアドバイザーの先生方の助言をいただき、絵本を媒体とした研究を進めて行く事になりました。

読み聞かせやクッキングが、押し付けではなく楽しい場面提供になる様に計画実践することや、この活動を通して子どもたちや私達がどう変化していったかを研究課題にすることとし、会員一同、同じ方向性を持って活動しました。

気持ちを一つにし、研究につなげていけた事で充実した発表ができたと思います。

発表にあたり、多くの人に支えていただきありがとうございました。